

令和元年度 第2回小松島市総合教育会議 議事録

1. 日 時 令和2年2月19日（水）15時～16時
2. 場 所 小松島市教育委員会2階会議室
3. 出席者 濱田市長
森本教育委員，眞井教育委員，渡部教育委員，東根教育委員，小野寺教育長
4. 事務局 西照総務部長，石山教育次長，勢井教育委員会参事，吉原学校課長，
花岡教育政策課長，芳賀秘書政策課長，西山学校課主幹，
露口秘書政策課課長補佐，河口教育政策課係長
5. 概 要
 - (1) 開会
 - (2) 協議報告事項
 - ①教育委員会点検・評価に関する報告について
 - ②小学校再編に関するアンケート調査結果について
 - (3) 閉会
6. 議事の経過 別紙のとおり

(芳賀秘書政策課長) それでは定刻より少し早いようですが、皆様お揃いでございますのでただ今から、令和元年度第2回小松島市総合教育会議を開催いたします。開催にあたりまして、濱田市長からご挨拶を頂きたいと思っております。

(濱田市長) みなさま、こんにちは。本日は、お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。そしてまた、昨日も教育論文等々の表彰式にと連日にわたりましてご参加いただきましてありがとうございます。子供達の学力や健全育成等々の論文ということで本当に素晴らしい論文が発表されました。そしてまた、今日は今年度第2回目の総合教育会議となります。本日の議題は3月定例会議での報告事項となっております教育委員会点検・評価関係の報告についてと、また、前回会議でもご意見いただきました小松島小学校再編に関してアンケート調査を行いましたので、その結果等々に関して報告させていただきます。皆様方におきましては、今回の会議においての忌憚のない意見を賜りたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。簡単ですけど冒頭の挨拶に代えさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

(芳賀秘書政策課長) ありがとうございます。それでは本日の議題に入りたいと存じます。総合教育会議につきましては、設置要綱の規定に基づき、主催が市長でございますので、以降の会議の進行を市長にお願いしたいと思います。それではよろしくお願ひいたします。

(濱田市長) それでは、これからの進行は着座のまま進行させていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。会議次第にあるとおり、協議報告事項1の「教育委員会点検・評価について」報告・説明をよろしくお願ひいたします。

(石山教育次長) それでは私の方から、令和元年度、平成30年度対象教育委員会の点検・評価報告書の概要をご説明いたします。資料をお手元にお配りしておりますので、よろしくお願ひいたします。1ページをよろしくお願ひいたします。教育委員会点検・評価報告書の趣旨でございます。地方教育行政の組織および運営に関する法律が改正されておまして、第26条に教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等が規定をされております。このことによりまして、平成20年4月1日から報告書を作成し、議会への提出・公表等が義務付けられております。続きまして2点目の点検・評価の対象でございます。本年度の対象といたしましては、小松島市教育振興計画(第2期)、これは期間としましては平成29年度から令和3年度の間期間に定められておるものでございます。この中の教育重点目標の推進プログラム16項目につきまして対象としているところでございます。続きまして2ページ目をお願ひいたします。点検評価の方法でございます。事業といたしまして5段階評価及び3段階の総合評価にて評価を行っておるところでございます。これを実施することによりまして、客観性の確保を完成する、また、3名の外部有識者等の意見も聴取いたしているところでございます。4点目の議会への提出、市民への公表の時期についてでございますが、今回総合教育会議でご説明をしたのち、3月の定例会議で議会

への報告、また市ホームページへの掲載を予定しているところでございます。続きまして3ページをお願いいたします。1、教育委員会の組織を記載させていただいております。これは平成31年3月31日現在の状況でございますが、平成31年4月1日より新たに小野寺勉新教育長となっております。また教育長職務代理者につきましては、東根米教育委員が就任をされております。なお眞井龍仁委員でございますが、平成30年10月12日に委員の再任といたしまして、議会での承認を得ているところでございます。以下教育委員会の開催状況等について3ページ以降記載をさせていただいております。4ページ5ページにつきましては教育委員会の活動状況、また行事等について記載させていただいております。6ページをお願いいたします。6ページ以降につきましては、先ほどご説明をいたしました重要項目につきまして、施策・事業評価、そして事業の内容等について記載をさせていただいております。それが続きまして、次に15ページをお願いいたします。15ページにつきましては外部評価といたしまして、実際に3名の委員の方に説明をいたしまして意見を聴取いたしておるところでございます。全般的な意見につきまして、ご説明をさせていただきたいと思いますが、「社会はグローバル化と情報化、少子高齢化が急速に進み、子供達が社会の変化に主体的に対応できる『生きる力』を身に着けるための教育の推進が重要である」「家庭、学校、地域、行政等は今後も連携を強化していく必要がある」と提言を頂いております。また「本市におきましては園児が減少している中で質の高い保育を目指した取り組みが行われている」という評価も頂いております。また「小学校・中学校においては確かな学力を身に着けるため『外国語活動』『プログラミング教育』『特別な教科 道徳』等が新たに uptake されている」ということでございます。これに合わせまして、『特別支援教育』『人権教育』『防災教育』を着実に進めていく必要がある」「教職員の働き方改革が大きな問題となるなか、教育委員会には学校現場等の声に耳を傾けながら、様々な教育実践を支援する」といったことも期待をされているところでございます。生涯学習におきましては「社会教育を中心に生涯学習推進体制を強化し、各種講座や芸能文化の振興等市民のニーズに応えるような取り組みを今後も続けていただきたい」ということでございます。「総じて今後も小松島市教育振興計画に示されております、教育施策が着実に推進されることを期待する」ということで、3名の委員から総括としてご意見を頂いております。以下16事業については16ページ以降記載をさせていただいておりますが、時間の都合上割愛をさせていただきまして、私の方から点検・評価報告書の概要についてご説明を終わります。よろしくをお願いいたします。

(濱田市長) はい、ありがとうございます。ただいまの報告につきまして何か意見などがございましたらよろしくをお願いいたします。森本委員さんの方から一言ずつよろしくをお願いいたします。

(森本委員) 毎年この報告を受けているのですが、教育の評価をするときに評価が大変難しいなと思います。事業評価3とか4とかがあるわけですが、3が想定通り成長が得られたということで、普通で3、やって当然という感じですけどやらなければだめということ。3と評価してもずっと継続してやっていかなければならないと思っております。それから4がついておるも

のがありますね。8ページですか、創意を決した学校運営には4がついていて、うれしいなと思いました。また8ページのところで確かな学力の育成ということで、学力をつけることは大変です。これは3になっておりますが、中学校であれば教科担任制で行われていて、一人の先生が数学の1単元を教えるのに3クラス回ったら同じ学習指導案で3回できるなと思います。小学校であれば学級担任制ですので、この単元を教えて次の単元を教えるためには先生も予習などの勉強が必要となります。1回使ったらそれで終わりなんですね。だから、学力をつけるというのは大変だろうと思います。先生も色々と工夫されて各学校学力を上げるために色々と対策を練って実践されていると思います。私が南小松島小学校の教務主任をしている時に、担任をさせてくれなくて理科の専科教諭として教務主任をしていました。6年生の4クラスについて理科を教えていました。いつも一番最初にいく学級の子はあまり平均点が良くありませんでした。同じことを教えても2番目3番目にいったら良くなっていく。4番目に至っては自分のなかで手抜き工事をするようになってるんですけど、同じことをしゃべっても子どもに伝わる響きが違うように思います。1回目は自分が不安ながらに授業をしてるわけですね、この指導案で大丈夫だろうか。だから例えば10時間教える単元だったとしたら、それが終わったら今度はこの2番目だったB組から授業をしよう、そしてこの単元がおわったら3番目だったC組から授業をしようと、主に均等割を考えたりしていました。学力を上げるために、小学校に専科が入ってきたらいいのではないかなと思います。小学校であれば今は音楽や体育の専科の先生がいます。小学校であつてもこういった専科の先生が入ってきたら面白いのではとこれを見ながら感じました。それともう1点よろしいでしょうか。3名の方の評価のなかで、総合評価が書かれているのですが、22ページに生涯学習環境の充実ということで、あとの小学校再編に関するアンケート調査にも関係してくると思うのですが、小学校が再編されて学校数が少なくなると、学校がなくなった地域の文化が衰退するのではないかとということで、反対されている意見がいくつか入っています。そうなってくると地域においては公民館での活動が大変重要になってくるのではないかと思います。ここにも書かれておりますが、「公民館は地域で最も身近に社会教育や地域行事の実施、いこいの場などの幅広い用途が想定できる施設である。本市において公民館を地域の生涯学習の中心的な拠点施設として維持管理や機能を充実する施策を取っていることは大いに評価できる」ということで公民館については4という評価が出ています。一方で、「安全・安心な機能を維持するためには、老朽化等による施設の改修や耐震補強について急務である」と小学校再編を進めると同時に、地域の公民館活動の充実が必要なのではないかとこれを読みながら思いました。以上です。

(濱田市長) ありがとうございます。事務局、今のことについて、来年はこういう風に進めたいとかありますか。特に中学校などは生徒の姿を見ながら次のクラスへというような点検評価を事務局のなかでどういう風に取り組むとか、公民館は今、改修工事等々行っていますのでそれについても簡単に話せると思うので。

(吉原学校課長) 森本委員の方から、お話のありました、小学校における国語とか算数を専門に教える、教科担任制につきましては、徳島市の一部の学校でもう始まっております。教科担任制を行うにあたりましては、1学年1学級ではなかなか人員的に難しいというのがあります。3学級程度あれば、教員の人員配置にもよりますが、教科担任制も可能ではないかなと思います。小松島市におきましては現在、英語専科が入っております、南小松島小学校、小松島小学校には3年から6年生まで専門的に1人の先生が教えております。教科担任制につきましては、南小松島小学校であれば可能かもしれませんが、1学年1学級のような他の学校では難しいかなということで適材適所に先生を配置しているというところでございます。以上でございます。

(濱田市長) 眞井委員さん、一言だけよろしく願いいたします。

(眞井委員) 評価項目についてはいっぱいあるし、特に評価されていることについてどうのこうの言うことはないです。ただ、これに関係あるかどうかはわかりませんが、読書時間が少ないというデータがあるということを前に聞いたことがあります。例えば学力向上に関しても、勉強嫌いな子に「勉強せえ、勉強せえ」と言ったところで、その子に勉強に興味があればなかなか勉強しないと思います。スポーツも同じで、体を動かすことに興味のない子にいくら言ってもしないと思います。本を読むということを勧めることによって、例えばスポーツに関する本を読んでスポーツを始めるとか、勉強も本を読んで興味を持ってもらうという効果が考えられます。道徳教育についてもすごく良い本がいっぱいあります。僕も本が好きで良く読むのですが、ほんとに素晴らしい本が沢山あるので、そういう本を読んでもらうために、図書館に行ってくださいと何度も言うのではなくて、学校でも取り上げて勧めていただけたら、子供達も色々なことに興味を持って自分から行動していくようになってくれると思います。こちらから「せえ、せえ」というのではなくて、子供にいろんなことに興味を持ってもらえるような勧め方をしていただけるアイデアがあったら行っていただければと思います。以上です。

(吉原学校課長) 眞井委員さんのおっしゃる通り、上からの押し付けでは子供はなかなか意欲もわきませんし、押さえつける教育では子供の能力を伸ばすことはできません。そこでその一つのツールとして読書というのが非常に効果的で有効であると言われております。ただ、小松島市の全国学力学習状況調査を見ますと、読書の時間が非常に少ないという結果がございます。次年度も読書時間を増やすために、どのような方策をするかというのは各学校と教育委員会が話し合うのですが、今は読書の生活化プロジェクトということで読書活動の推進を各学校で図っております。それから市立図書館も各学校の各学級に30冊とか準備してくれていまして、こういう本が欲しいとかの要望もあげてもらって読書活動の推進を行っております。また本の選定も非常に大切でありますので、今年は各学校での図書購入費も少し増えておりますし、子供が少しでも関心のある本を選定していきたいと思っております。さらに、道徳教育ですけども、道徳が教科化となりましたので道徳の教科書というのがご

ざいます。それを読むとなかなか濃い内容のものでございますので、道徳という教科をきちんと年35時間教育課程を行っていきたいと思います。以上です。

(濱田市長) はい、ありがとうございました。次に渡部委員さんよろしくお願ひいたします。

(渡部委員) いろいろなところから点検していただいて、良い評価を頂いておれば取り組みが成功しているということで安心ということではあると思います。これからもっと点検していただくことが細分化していくのではないかなと思います。23年度から小6と中3のテストがパソコンで行われるということが報道されてきました。パソコンでテストを受けるということになると、導入もそうですが、そういった指導を大急ぎでしなければならなかったりすると思います。また先ほどの教科制もそうですが、1学校1学級では無理ということでしたけど、各学校を回る形で取り組んでいただけたら良いかなと思いました。それと項目としては、先日もテレビで取り上げられていましたが、今、企業が採用する条件として、出身校とかいうのではなくて、コミュニケーション力を一番に評価するということが報道されてきました。だから、小さい時から受け身の事業ではなくて、ディベートの教育であったり、読書も心を豊かにするというだけでももちろん大事ではあります。これからの生きる力というのは漠然としたものではなくて、そういう技術的なものを身につけたり、こういうときにはこういう風な返事をするというような、そのためにはいろいろな情報を覚えてないと発言ができないのです。企業に採用される場面において8割という高い割合でコミュニケーション力が重要視されるということでした。またこのことについて調査してみると、小中高を通じて高い割合で、コミュニケーションが苦手であるという結果が出ており、ギャップが大きい。なので、こういったことを教育で取り組んでいかなければいけない。一度パソコンから離れて、読書の時間が大事というのが勿論あります。このことについては賛否ありますが、このために香川県では条例まで作っています。やはり子供には悪影響の方が多いと思います。ゲーム脳というようなものになってしまうと取り返しがつかない。日常の読書をしたりという心を磨くという時間が取れないというような生活習慣が身につけてしまうとなかなか助けようがないと思います。学校で課題を与えて何かについて議論をする、コミュニケーションをして色々な人の意見を聞くといったような時間を教育の現場に取り入れてもらったらいいのではないかなと思いました。総合点検表を見て、そういった項目をまた入れてもらうようにすればいいかなというのが感想です。以上です。

(濱田市長) はい、ありがとうございました。それでは事務局、AIを使ったコミュニケーションのあり方ということで、ちょっとお願いします。

(吉原学校課長) まず1点、訂正がございます。平成23年度から全国学力学習状況調査にパソコンを使うということが一部報道されましたが、これが間違いであるという通知が来ております。多分23年度以降にはいずれはなっていくようです。市長が言われた通り、タブレット等を令和4～5年度までには一人一台持ちまして、それを活用していく力が求められております。

つまり情報活用能力というのが、コミュニケーション能力とも一致してくると思うのですが、繋がっていくと思います。ICTのために子供達に技術をしっかりと付けるということが、小松島市の課題でございます。小松島市の子供達はICTに関して非常に調査項目ではパーセンテージが低かったです。次年度から色々、ICTの機器を導入して子供達たちにしっかり有効活用していただいて、力をつけていってコミュニケーション能力を高めていきたいと考えております。次年度から始まります指導要領が、対話的な学習というのがメインですので、渡部委員さんがおっしゃったように対話的な学習を重視して進めてまいりたいと考えております。また、先ほど教科担任制の事に関しても、4校案が出ております小学校再編により1中学校に2小学校体制となりましても、教科担任制においては小学校中学校の相互乗り入れということができます。そういうことも工夫を凝らして、子供達の確かな学力育成に努めて参りたいと考えております。以上でございます。

(濱田市長) はい、ありがとうございました。東根委員さんよろしくお願ひいたします。

(東根委員) 16の項目をある程度見ていると、どれも大事なことで、私たちが教員になりたての時もこの16項目というのはあったように思います。今日もテレビで健康について触れられていまして、今コロナウイルスが流行って、大学受験において、もし雇っていたら受験の再度はないというようなことを報じられていました。ということは、健康管理がいかに大事かということです。徳島県において高校入試の場合は再試験を設定してくれているようですが、病気になるれば試験も受けられないような世の中になっています。どれも外せない項目なので大事なかなと思います。安全面、危機管理、防災に関してもそうですし、どれをとっても軽視できないというのがあるのかなと思います。それから小学校の子供達を見ていると、スポーツをすごく楽しみにしている子はそれにのめりこんでいるというか、こどもの人数が減りつつあるのに学校が集まって試合したりとか、子供はスポーツに学校以上の重点を置いているのではないのでしょうか。それから先ほどの教科担任制ですが、この前どこかの学校で3クラスについて教科担任制を行っている報告がありました。それは働き方改革の改善といいますか、そういう面から考え出したようなことを言っていました。ただし、それが全部良いわけではなくて、3クラスの状態や子供たちの様子を担任と連絡を取り合う時間が必要となるということもあります。教科担任制については私が退職する前からずっと言われてきたことですが、良い面もあるし、教科担任制という専門性を小学校でも活かしていくのもいいのかなと思います。

(濱田市長) はい、ありがとうございます。健康づくりと小中学生の体力づくりが日本全国でも落ちているので、このようなことを評価点検にふまえていくというのはどうでしょうか。

(吉原学校課長) まず1つ、インフルエンザのことですが、小松島市はインフルエンザによる学級閉鎖・臨時休校がありません。他のところは沢山あるのですが、先生方の日頃の手洗いうがいとかの励行、それから健康管理等に気を付けていただいているということではないんだろう

かと思っております。ただ体力づくりに関しましては、以前でありますとこの時期にはマラソン大会ですとかあったように思うんですけど、そういった行事も少なくなってきました。一部の学校では、県の体力づくりのチャレンジというものに参加していただいていた頑張っていた学校もあるのですが、すべての学校に体力づくりを大きな学校の柱として掲げてもらって次年度につなげてもらいたいと考えております。以上でございます。

(濱田市長) はい、ありがとうございます。それでは教育長に森本先生からいただいた専門性のこと、読書、そしてまたAIを使ったコミュニケーション力、子供達の健康増進に向けた取り組みなどを総合的にお答えいただけたらお願いします。

(小野寺教育長) 時代が変わりつつあって、今までやってきたことを継承することではなかなか難しい時代が来ています。今回の総合評価も3の評価と4の評価という継続ないしは想像以上の成果が得られたというような評価になっているが、実は4の項目がついていてもさらにやっけないとならない現状に追い込まれているということがあります。今市長の方から話のあった、ICT一つにとってもここ1年で大きく変わっている。だから4の項目であっても当然次年度に向けて、さらに4を付けていくような事業を実施していただきたいと思います。具体的に、専門性や読書、健康管理などの話ができましたが、特に専門性の話で教科担任制という話も出てきましたが、実際今回の新しい学習指導要領では対話的な学習というものが重視されています。そうなると教員自身が今までの手法ではそういう授業展開ができない。だから、対話的な学習をさせるような授業展開をする方法というもの教員自身が学んでいく必要がある。これが当然専門性にもつながってくるだろうかと思います。この評価のなかの創意を結集した学校運営に4の評価がついている。この部分、学校の教育目標ないしは先生方の研修目標というようなもののベクトルを合わせていくことによって、さらに専門性を深めていく。その時に絶対に忘れてはならないのが、今までである既存のいろんな研修等を活かしながらそれをまとめていく術というのをしていかなければならない。これは一番最後の4の文化の継承のところにも関係するのですが、例えば人権推進課が色々な研修をまとめてニーズにあった形に変えていくという形で動いております。これは他の生涯学習に関しても、学校教育に関しても同じようなことが言えるのであって、やはり新しいものをどんどん足すというのは難しく、今ある研修や取り組みをいかに効率的に効果的に合理化をしていくというような視点で来年度の重点目標を見直していただけたらなと思います。読書と健康についても話がでたのですが、特に健康につきましては先ほども話題にでたコロナの件ですが、このところ国の方の動きも加速的になって動いています。もし何かが起こった時の指導体制ないしは対応の体制というものを常備しておくべきではないかと思います。この点検評価の中に計画やマニュアルという言葉がたくさん出ています。そういう風なものを今のニーズに合わせた形にもう一度見直しをお願いできたらいいと思う。例年踏襲といった形にとらわれずに、新しい時代のニーズに応じた形というものを絶えず教育の現場には取り入れていく必要があると思います。

(濱田市長) はい、どうもありがとうございました。他にありませんか。続きまして、協議報告事項2の小松島市立小学校再編に関するアンケート調査結果について、報告、説明をお願いします。

(花岡教育政策課長) 学校再編に関する市民アンケート結果をお願いします。1 ページをお願いします。まず、1. 調査の目的については、「小松島市立学校再編実施計画(案)」等についての内容の周知や、今後の学校再編に関する取組に市民の意見を反映させるため、実施しました。2. 調査対象については、市内在住の16歳以上の男女33,451人の中から無作為に抽出した3,000人を調査の対象といたしております。有効回収数は907票、有効回収率は30.2%でございました。3. 調査方法・期間につきましては、まず調査方法については、郵送により配布し、郵送による回答により回収いたしております。調査期間については令和元年12月9日から12月24日までの16日間で実施いたしました。4. 調査項目については今回のアンケート調査の見出しを表記しております。5. 調査結果利用上の注意については、小数点第2位で四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があることや、複数回答を求めた質問項目は合計が100%を超える旨を表記しております。続いて、2ページをお願いします。6. 標本誤差の範囲の設定ということで、本来、アンケート調査を行う場合、全母集団を対象とすることが望ましいが、実際には適当な人数を選んで精度の高い調査結果を得なければなりません。そのため、アンケートの回答結果が、どの程度の精度を持った回答結果かを検討することが必要であり、その精度は標本誤差を算出することで把握できるとなっております。標本誤差とは、これは以下の表で表す事ができます。本調査の回答結果につきましては、回答者全体の標本誤差の範囲を設定すると、下の表のようになります。この表の見方ですが、例えば、本調査においてある質問を単純集計した場合、その設問で「A」という回答が全体の50%であったとすれば、本調査の全母集団に同じ設問をしても、統計学的には95%の確率で「A」は $50 \pm 3.2\%$ の範囲内となります。標本の大きさは、pが50%の場合が最も大きくなるため、本調査の全体の回答結果が最も分散していた場合でも、全母集団から得られる結果と比べて、3.2%以下の誤差しか生じないこととなります。したがって、本調査の結果については、信頼度95%(誤差 ± 3.2)であり、統計学上、同じ調査をしても100回中95回は同程度の数値が導き出されると考えられますので精度が高い結果と言えると考えております。次のページをお願いいたします。ここからは調査の結果でございます。問1. お住まいの小学校区については、「南小松島小学校区」が最も多く、次いで「和田島小学校区」、「児安小学校区」、「新開小学校区」となっております。問2. 年代につきましては、「70代」が最も多く、次いで「60代」、「40代」となっており、『60代以上』が約半数を占める結果となっております。続いて、4ページをお願いします。問3. 職業につきましては、「その他」が最も多く、次いで「会社員(公務員含む)」、「自営業」となっております。「その他」の主な内訳は『主婦』『無職』『パート』といった回答が多くみられました。問4. お子様の有無につきましては、「いない」が最も多く、次いで「その他」、「就学前」、「中学生」となっております。「その他」の主な内訳は『社会人』『高校生・大学生』といった回答が多くみられました。続いて、5ページをお願いします。問5.

学校再編に関する意向ということで、現在、全国的に児童数が減少することに伴い学校数が減少しています。小松島市においても、令和12年度には児童数が1,125人にまで減少し、学校施設の更新期限(建築後60年)も迫っている中で、学校再編についての検討を行っているところでございます。このことについて、どうお考えになりますか。という設問に対しまして、「理解できる」が81.1%、「理解できない」が6.5%、「わからない」が10.8%となっており、8割以上の方が「理解できる」というお答えを頂いております。小学校区別にみると、いずれの校区も「理解できる」が7割以上となっており、特に『榑淵小学校区』で87.5%と最も多くなっております。一方、「理解できない」と回答した割合は『北小松島小学校』で12.1%と最も多くなる結果となっております。続いて、6ページをお願いします。問6. 学校教育の充実に必要な内容ということで、今後少子高齢化・国際化が急速に進展する中で、就労の構造も変化し、国の教育課程企画特別部会によると、「今後10年～20年程度で、約47%の仕事が自動化される可能性が高い」「子どもたちの65%は、今は存在していない職業に就く」と予測されています。このような変化の激しい社会を前に、どのような学校教育の充実を図ればよいと考えられますかという問いに、「豊かな心や人間性を育む道德教育」が回答が最も多く、次いで「コンピュータ等を適切に活用できる情報教育」、「英語活動等を重視した国際理解教育」、「読書活動等を通して、表現力を高め想像力を豊かにする教育」となっております。下の表の小学校区別にみると、『小松島』『児安』『榑淵』を除くすべての小学校区では「豊かな心や人間性を育む道德教育」が最も多く、『小松島』『児安』『榑淵』では「コンピュータ等を適切に活用できる情報教育」が最も多い回答となっております。続いて、7ページをお願いします。問7. 再編する学校の施設に必要な機能ということで、全国的には、学校再編を契機として、地域の方とともに学校教育について考える取組みにつなげる事例もあります。再編する学校の施設にどのような機能が必要だと思われませんかという問いに、「避難場所や防災器具・食料備蓄など防災の場」と答えた方が最も多く、次いで「放課後子ども教室の活動の場」、「学童保育クラブの活動の場」、「空き教室利用など地域住民のコミュニティ活動の場」となっております。下の表で小学校区別にみると、すべての小学校区で「避難場所や防災器具・食料備蓄など防災の場」が6割以上と最も多く、『立江』では「学童保育クラブの活動の場」も比較的多くなっています。続いて、8ページをお願いします。問8. 4校再編案に関する意向ということで4校(南小松島小学校、児安小学校、新開小学校、和田島小学校の敷地)に再編することにより、市の北部地区と南部地区ともに、「1中学校・2小学校」になることで、学校間の連携をさらに強化することができ、義務教育9年間を通じてより良い教育活動をしていきたいと考えております。このことについてどう思われますかという問いに対して、「理解できる」と「大体理解できる」を合わせた『理解できる』が79.4%となっており、一方、「あまり理解できない」と「理解できない」を合わせた『理解できない』が17.9%となっており、およそ8割の方が『理解できる』と回答しております。小学校区別にみると、いずれの校区も『理解できる』が6割以上となっており、特に『南小松島小学校区』では88.2%と最も多くなっております。一方、『理解できない』と回答した割合は『千代小学校区』で32.1%と最も多い結果となっております。続いて、9ページをお願いします。問9. 4校再編案に対する賛否ということで、児童数の減少

や学校施設の更新時期が迫っており、教育委員会としては、総合的な検討を行った結果、4校(南小松島小学校、児安小学校、新開小学校、和田島小学校の敷地)に再編する案を提示させていただいております。この案についてどう思われますかという問いに、「進めた方がよい」が71.9%、「進めない方がよい」が20.5%となっており、7割以上の方が「進めた方がよい」と回答していただいております。下の表で小学校区別にみると、いずれの校区も「進めた方がよい」が過半数となっており、特に『南小松島小学校区』で82.8%と最も多くなっております。一方、「進めない方がよい」と回答した割合は『坂野小学校区』で35.2%と最も多くなっております。続いて、10ページをお願いします。問10-1ということで先ほどの問9で4校再編案を「進めた方がよい」と答えた人の意見としては、「通学支援」が最も多く、次いで「学校数」、「再編時期」となっております。問10-2に関しましては先ほどの問9の4校再編案を「進めない方がよい」と答えた人の意見で、「学校数」が最も多く、次いで「通学支援」、「再編場所(敷地)」となっております。問11. その他小学校再編に関する意見ということでこの内容に関しましては第3章 資料(2) 自由意見に記載しております。続いて、11ページをお願いします。第3章資料ということでクロス集計表となっております。ここからは、問1から問10までを小学校区別、年代別、職業別、お子様の有無別で集計したものです。少しとびまして19ページをお願いいたします。さきほどの問9. 4校再編案に対する賛否のところですが、2段落目の年代別をまずご覧いただきますと「進めた方がよい」と答えた方は、「10代」が最も多く、「80代以上」が最も少ない結果となっております。一方、「進めない方がよい」と答えた方は、「30代」が最も多く、「40代」が最も少ない結果となっておりますが、どの年代も6割以上の方が「進めた方がよい」という回答を頂いております。22ページからでございますが、これは自由意見でございまして、まず、問9で進めた方がよいとお答えになった方の記述意見を「1学校数」「2再編時期」「3再編場所」「4通学支援」「5その他」に分類をいたしまして、22ページから46ページまで掲載しております。47ページからは問9で進めない方がよいとお答えになった方の記述意見を「1学校数」「2再編時期」「3再編場所」「4通学支援」「5その他」に分類し57ページまで掲載しております。また、58ページからは、問9で進めた方がよいとお答えになった方の「自由意見」65ページからは、問9で進めない方がよいとお答えになった方の「自由意見」を掲載しております。71ページからは、問9で回答されなかった方の記述意見を「1学校数」「2再編時期」「3再編場所」「4通学支援」「5その他」に分類し73ページまで掲載しており、74ページは問9で回答されなかった方の再編に関する「自由意見」を掲載しております。説明については以上になります。

(濱田市長) はい、ありがとうございます。只今のアンケート調査結果について何かご意見などありましたら、森本委員より一言ずつよろしく願いいたします。

(森本委員) アンケート結果を初めて見せていただいた時に、4校再編に関する賛成意見が72%ぐらいあり、理解をしているという意見が80%あります。このアンケート結果が出る前に、教育委員会の皆さんが各学校に説明に行った時の結果を聞いていたのですが、その時に

これは大変な作業だなと感じ、これだけの賛成意見が出ることはないだろうと思っておりました。この数字をみて内心ほっとしているところがあります。それと、4校再編を進めない方がいいという方々の自由意見をみても、学校数、再編時期、再編場所、通学支援の問題と4項目について分かれて書かれているなかで、学校数に違いはあるけれども再編は必要であると感じている方の意見が多いように思いました。学校の再編の時期についても、早い遅いはあるけれども再編は必要であるとほとんど考えられているなど感じました。再編の場所についても、いろいろと条件が出ておりますが、安全性を求めているなど、学校再編を進めない方がいいという方の意見の中でも、時期の遅い早いはあるけれど、再編については必要であると感じている意見を見て安心し、市民の皆さんがどう考えているかよくわかりました。通学支援についてもスクールバスの利用などの意見があり、学校再編に関して地域の方や保護者の方が何を学校再編に求めているのかが良くわかりました。

(濱田市長) はい、ありがとうございます。眞井委員さんよろしくお願ひいたします。

(眞井委員) アンケート結果を見る限りでは、ほぼ8割くらいの方が賛成ということで、反対している方の自由意見を見ても皆さん距離の問題をすごく気にされているのかなと思いました。再編を行うとなった以上、100%の方が納得する意見というのは絶対できないので、どこで上手く線を引くということがこれからも難しい作業であると感じます。例えば、どれだけ遠いところであっても通学支援にスクールバスを使用しますとなった上でアンケートを行えば、賛成の数字がもっと増えたのではないかなという気がします。子どもの数を考えたら、学校が減るのは仕方がないと思っている人は反対の中にも多くいると思うので、これからどういう風に通学支援をしていくのがいいのかというのが一番の問題になってくると思います。以上です。

(濱田市長) はい、ありがとうございます。渡部委員さんよろしくお願ひいたします。

(渡部委員) 私は最初2校でもいいのかなという意見を出していましたが、2校か4校かとなってきたときに、4校案となった場合学年に1クラスずつの学校が2校残るわけですから、2クラスで切磋琢磨することができないと思っていました。しかし、以前の会議での森本委員さんの意見にあったように、大きな学校で適応できなかった子どもの受け皿としての機能がこれらの学校にあったり、通学支援の観点から考えられた上で4校となっているので、最終的には4校でも2校でもどちらでもいいかなという気持ちになっています。このアンケートの結果を見ても、どの市民の方も少子化はしょうがないので再編には当然取り組むべきであると思っはいるけれども、自分の地区が寂れるなどの理由で反対している意見があります。市全体として考えると、山奥の学校ではなく、平地の狭い中での移動となるので環境を整えれば通学は可能で負担は少ないかなと思います。小さな子供が近くの学校に歩いて行けるのが理想ですが、再編をせざるを得ない状況になっており、再編を行わなければ学年に4人や5人しかいない学校も出てきて、そこまで放っておくというのは出来ません。です

ので、教育委員会主導、政治主導で行っていただければ、後にありがたいことであったなと思えるようになると思います。この資料をいただいた時に、全国で行われている学校再編に関するアンケート結果について調べてみたのですが、「人口を増やしてから再編を考えるべき」と言う意見など、どの県も面白いほど小松島市と同じ意見が出ていることに驚きました。どこも少子化に悩んで取り組んでいることなので、子供のことを一番に考えるということと、コンパクトシティの中での取り組みですから、そういう意味では大変ではないと思います。しかし中には、再編後にスクールバスが破綻し、結局は親が送迎することになったところもあって、大変だなと思いました。けれど、この再編は先導してもらってどんどん進めていくべきで、若い親たちには希望の持てる良い学校にしてもらわなければならない。特に防災面などに関しても配慮された学校ができれば、後に良かったと思えるはずなので進めていただきたいと思います。

(濱田市長) はい、ありがとうございます。東根委員さんよろしく願いいたします。

(東根委員) 他の委員さん方の意見と同様で、私も4校案には賛成です。1中学校2小学校ということのうち1つの小学校が小さくなるという反対意見もありますが、子供一人一人の成長の土台・原点として考えていかないといけないと思います。私が小松島中学校の校舎を建てる時に在職していたのですが、その時に校舎建設検討委員会というのを立ち上げて、校舎の外壁から中の窓まですべてに関して先生方にご意見を聞いたものを、市に意見をあげたところ、意見が通ったところもございました。今の時代を生きていく先生方のご意見も反映させた上で建築できたらいいと思います。そうすれば子供達も住みたい街としてこれから残ってくれるようになると思います。

(濱田市長) はい、ありがとうございます。教育長さん、まとめていただければ。

(小野寺教育長) 学校再編を進めることへの理解が80%あるということに、ある意味驚きを感じました。年齢によってすごく差異があるのかなと思っていました。だから80%の市民の方に賛同していただいているのですが、その中身というのはすごく偏りがあるないしは、校区によって非常に偏りがあるのかなと思っていました。しかしアンケート結果を見せてもらうと意外とその差が大きくなかったことが非常に印象に残っております。それを裏返しに言えば、ある意味再編を進めることに幅広くご理解を得られているのかなと感じました。ただ、あくまでアンケート結果が全てではございませんので、結果を参考にし、今後様々な方々と協議をしながら最終の総合的な判断をしていかなければいけないと考えています。

(濱田市長) はい、ありがとうございます。他に何かございませんでしょうか。

(渡部委員) 皆さんどの方も、再編は必要であると思っておられると思うんですが、教育委員会の方々が説明に回られたけれど、学校がなくなる地区の方については心の中で納得できな

い方もいると思います。だから、学校がなくなることは人々の心にも、地区の文化にも影響があるので、もう説明を尽くしたという姿勢ではなく、心の中でも納得してもらえるようなフォローが大切だと思います。頭ではわかっているけれども、心をほぐす作業が必要ではないかなと思いました。

(濱田市長) はい、ありがとうございます。他に何かございませんでしょうか。

(森本委員) 何年か前にいらっしゃった校長先生が私におっしゃったことで「早く取り掛かればいい結果が出る、ちょうどいい時に始めれば危うい、森本は遅し悪しだ」という言葉があります。早く取り掛かって急げではないのです。早く取り掛かっていたら、いろんな障害が出てもちょうどいいところでできますよと。ちょうどいいところで始めるとギリギリになることもあり危うい。遅く始めれば結果は悪い。ということで、急がなくてもいいので早く取り掛かるとゆとりができていいのではないかと思います。

(濱田市長) はい、ありがとうございます。他に何かございませんでしょうか。

(東根委員) 教育委員会の方も地域に出でいかれてすごく丁寧に説明されていると思います。しかしアンケート結果では「広報等でもっと周知して欲しい」など、なかなか周知というのは難しい。渡部委員さんもおっしゃられたように説明の仕方というか、根気強く反対意見の方にも丁寧に説明したら、8割以上の方が賛成の方向に向いているのだから実行できるのではないかなと期待しています。

(濱田市長) はい、どうもありがとうございます。他にございせんか。私が一言だけ申し上げると、今回の再編のアンケートということで、特に通学支援ということで、今回私も反省しなければならないのは、市長部局ということで、都市整備であったりまちづくりであったり、インフラ整備を充実して欲しいという項目が多くあったと思います。そのことについて、市長部局として担当課が行って意見を直接聞かせていただく必要があったのかなと反省をしております。今後再編に関して色々と協議がありましたら、市長部局からも1人ないしは2人出ていって市民の皆さんの声を聞いて、子供達の通学路の安全確保ということに今後とも取り組んでいきたいと私も考えておりますので、ご支援をよろしく願いいたします。これで本日の協議事項は終了しますので、事務局へお返しいたします。よろしく願いいたします。

(芳賀秘書政策課長) 濱田市長、各教育委員の皆様、本日は誠にありがとうございました。本日の会議の議事録につきましては、こののち事務局で作成し、決裁を得たものを市公式ホームページで公開する予定となっております。以上をもちまして、令和元年度第2回小松島市総合教育会議を閉会いたします。お世話になりました。